

助成年度：2019 年度

[所属] 福島大学 共生システム理工学類

[役職] 准教授

[氏名] 兼子 伸吾

[課題]

東日本大震災後に生じた家畜ブタと野生イノシシにおける交雑状況の解明

[内容]

2011 年、東北地方太平洋沖地震の影響で福島第一原子力発電所の事故が発生し、福島県内では広範囲に避難区域が設けられた。避難区域内では、人間の生活が規制されたことにより野生哺乳類が増加していることが指摘されている。中でもイノシシは、野生化した家畜ブタと交雑している可能性を指摘されている。そこで、福島県内の避難区域に生息するイノシシ個体群と家畜ブタの交雑の現状を明らかにするための遺伝解析を行った。

母系遺伝するミトコンドリア DNA のコントロール領域、および両性遺伝する核マイクロサテライトマーカーの解析により、交雑個体の分布や頻度について分析した。母系遺伝するミトコンドリアについては、ブタ由来のハプロタイプが各地域における頻度を減らしつつも拡大していることが予想された。その一方で、両性遺伝する核ゲノムにおけるブタ由来の遺伝子は、イノシシとの戻し交配が進むにつれ今後ほとんど見つからなくなることが予想された。